

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) 学習・資格取得・読書 ア 授業規律の徹底により学習習慣を定着させ、新学指導要領に則った授業の改善や工夫、ICT機器の活用等により生徒の学習意欲を高めさせる。 イ 全商主催検定試験を基本に、外部団体主催の高度資格取得に挑戦させる。 ウ 図書室の積極的な活用を図り、読書習慣を身に付けさせる。 (2) 学校行事・部活動 ア 各学校行事の趣旨を明確にし、生徒を主体的に参加させることで成長を促す。 イ 部活動は成績偏重にならないよう留意し、公平性、自主性、協調性を養うよう意識させ目標を定めさせる。 (3) 生徒指導・生徒相談・学校安全 ア 基本的生活習慣を確立させ、挨拶の励行、道徳性やコミュニケーション能力、レジリエンス能力の向上を図る。 イ 問題や多様化する生徒の悩み（いじめ・LGBTを含む）を抱える生徒を日常の観察や定期的な調査等により早期発見し、校則等の見直しなど組織的な対応を図る。 ウ 生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえた校則及び、生徒指導の在り方、情報モラルの周知を図る。 エ 校内美化の徹底と防災・防犯を含めた安全・安心を確保するための対策を施す。 (4) 進路指導 ア 3年間の綿密な計画のもと、適確な進路情報を提供し、意識高揚を図る。 イ 進路決定（内定）後の進路指導の充実を図り、卒業後の進路先に備えさせる。 (5) 開かれた学校づくり ア 地域連携、高大連携等の取組や積極的な情報発信により地域との連携を密にする。 イ 社会奉仕・ボランティア活動、国際交流活動等の推進を図る。 (6) キャリア教育 ア 生徒自身で自分らしい生き方について考え、生涯学び続ける力を身に付けさせる。 イ 教員として相応しい言動等に十分留意し、常に自己研鑽に努め、研究と修養を行う。 (7) 教員の働き方改革の推進 ア 全職員で、働き方改革についての具体的な取組を実践し、情報共有を行う。 イ 教員の健康と多忙化解消のため、部活動は、学期中は平日と土日に各1日、週2日以上以上の休養日を設定する。</p>			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	成果と課題	次年度に向けての改善策
<p>総務部</p>	<p>P T A活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナの状況で、活動を制限したり、変更したりしてP T A行事を実施する。 ・役員会で専門分野別に分かれ、話し合いの機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の行事については、コロナ前と同様に役員が出席し、情報を共有することができた。 ・校内の行事については、各専門委員会の委員長を中心に準備・運営することができた。しかし、専門委員会の開催は1回のため、その後の運営について委員長及び3年役員の負担が大きくなってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P T Aの活動内容を考え直す必要がある。各専門委員会の在り方や運営方法について、保護者と学校がどう結びつき、生徒たちの活動にどの程度関わっていくのかを、他校の事例なども参考にしながら模索していく。
	<p>防災意識の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に地域住民が避難してくることを想定し、地域住民と学校が連携した避難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の防災訓練で初期消火訓練や起震車乗車体験を通して、火災や地震について考えさせることができた。 ・年に2回の避難訓練の在り方や防災委員の役割について、検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練について、想定を可能な限り具体的に示し、いざというときに今自分がすべきことを生徒一人一人が考えることができる訓練となるよう、実施方法を見直す。
<p>教務部</p>	<p>学習改善と指導改善の機会拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業前や終業後、自宅などあらゆる場面でタブレット端末の活用を促し、学習コンテンツを活用しながら学び直しや振り返りの機会を拡充する。 ・授業参観週間や授業アンケートを通して、若手ベテラン問わず、授業の見直しや改善を図り、質の高い授業が担保される環境づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路判定テスト後や3年生の就職試験対策など、スポット的な活用が見受けられた。しかしながら、教務部で舵取りして利活用を促すなどの積極介入には至っていない。 ・他者視点による学びの可視化が概ね実現できた。さまざまな気づきや刺激が生まれ、教員の指導改善や生徒の学習改善につながる充実した機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるタブレット活用は不可欠なツールとなっており、課題提出や連絡の手段としては生徒教員ともに抵抗なく操作できている。今後も学年団や情報研修部と連携し、学習コンテンツの有効活用について議論を重ね、学力の維持向上に努めていきたい。 ・授業参観週間に限らず、教員同士が日常的にお互いの授業を参観し、高め合える機会を設けていきたい。また、教科科目を問わない外部人材の積極的な活用を教科主任会等で促し、学びに深みを与える体制を整えていきたい。
	<p>「岡商での学び」の見える化と情報の共有、発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画にもとづき、中学校教員や保護者、企業人事などあらゆる関係者に授業や設備施設の公開を行う。 ・中学校訪問や学校説明会などで本校の魅力を十分に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り、多くの関係者に本校の学びや商業教育について知っていただく機会を設けることができた。 ・運営委員を中心に、対中学校向けの説明会や訪問を分担してきた。特に卒業校在校生の様子は積極的な発信を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開では学校を開放する日が少なかったため、参加できる人数は限定的であった。早めの計画立案とともに、日程を調整し、「参加したいけど行けない」状態の解消、改善を図る。 ・一部の教員に負担が偏らないよう、年度当初段階から年間の活動予定を立て、多くの教員が関わり、さまざまな多角度から情報発信できる環境を整える。
	<p>図書機能の発展充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学習等を通じて図書館利用の機会を増やす。 ・読書週間やビブリオバトルなどを通じて生徒が本に親しむ機会をつくり、読書習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時図書館を開館し、いつでも学習できる環境にすることで入りやすい図書館を目指した。その結果、普段から多くの生徒が学習の場として利用し、読書に勤しんだ。10月までしか開館していなかったが、貸出冊数は昨年一年間に近いもの（709冊）であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事に伴い、夏近くまで図書館が機能しないため、図書館日より等を通じて生徒たちに読書の楽しさを伝え、豊かな心を育む機会を途絶えさせないようにしたい。また、本校生徒は潜在的に読書好きが多いと思われるので、そのような生徒のニーズに合った図書館にしていきたい。
<p>生徒部</p>	<p>基本的生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠統計を活用し、学校全体の遅刻、欠席、早退に対する意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠統計資料を月ごとに担任、他各所に示し、現状把握に効果をあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任はスクールエンジンの出欠統計で状況が把握できており、次年度はそのデータを生徒指導部の資料として活用できるかを検討する。
	<p>情報機器利用のマナーの向上とSNSに関するモラルの向上の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯、スマホ安全教室を全学年で実施し、SNSトラブルの事例について理解を深める。 ・生活委員会からの情報発信を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯、スマホの取り扱いに関わる啓発を集会の講話等で行った。 ・授業の取り組みで啓発動画を制作した。 ・授業、委員会の取り組みで啓発ポスターを制作し、校舎内で掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県内、岡崎市内ではスマホ・SNSに関わる高校生、未成年のトラブルが重大問題となっているので、プロアクティブな指導を行う。 ・集会の講話だけでなく、学年やクラス単位で行う啓発指導を計画したい。 ・授業、委員会を活用し、生徒が主体的に課題解決に取り組めるように環境を提供する。
<p>生徒会</p>	<p>学校生活の充実を図る行事の運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を活性化させ、生徒の意見を取り入れた行事運営をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡商祭における運動委員及び文化委員の実行委員兼務については、運営がしやすかったので次年度以降も継続したい。 ・その他委員会については、委員の在り方から検討しなければならないと感じた。今の岡商に何が必要なのかを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度中に一度生徒会規約の見直しを行う。委員会の名称、役割等々現代に即したものになっていない現状がある。規約を整備し、よりよい生徒会活動・委員会活動が実施されるよう検討をする。
	<p>生徒会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナに対応した行事運営を生徒と共に検討し、有意義な学校行事にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡商祭について、生徒アンケートの結果では体育祭・文化祭ともに80%以上の生徒が満足と回答した。 ・文化祭ではクラス展示等の内容の充実が、体育祭では、今年度以上に円滑に運営することが最大の課題だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭については新ジャンルの考案により、なるべくクラス企画の重複が出ないよう検討する。 ・体育祭においては、初めての体育館開催ということもあり、運営側も手探りであったため、来年度は種目を増やして、より生徒が参加できる体育祭にしていく方策を検討する。
<p>進路指導</p>	<p>ミスマッチを生まない進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の進路希望調査や進路相談メモなどを活用し、面談を綿密に実施する。 ・就職選考のよりよい方向性について、現状と課題を明確にする。 ・進路決定後にモチベーションを下げないように、生徒と進路先が面談したり関わりをもったりする機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の96.7%が「自分が希望する進路決定ができた」と回答した。 ・就職指導における課題を明確にすることができた。 ・就職希望者のべ50人程度と個人面談を行い、122人全員と最終面談を行い、意思疎通を図ることができた。 ・進路決定後の全体指導1回、個別指導を5回実施した。 ・「進路の手引き」を改訂した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職指導について、生徒の主体性・企業研究等の時間がかかなり不足していると感じた。来年度は生徒が積極的かつ主体的に情報収集・情報活用を行える機会と情報の提供を実施したい。 ・「売り手市場」といわれる状況だからこそ、生徒に自信を持って自分の進路を選択でき、それに応じた力をつけるための指導を実践したい。 ・進学において、指定校制推薦を含めた学校選びの考え方について議論する必要があると感じた。「どの学校に入れるのか」ではなく「どの学校に入りたいのか」という前提に立った進学指導を心掛けたい。 ・進学希望者の増加により、指定校以外の様々な入試に対応する体系的な指導方法を構築していく準備の必要性を感じる。

	進路指導	情報発信、情報共有、情報蓄積の強化	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室前の掲示板を活用し、適切な情報を適切に発信する。 生徒が知りたい情報を適切に発信するため、生徒進路委員会を定期的に開催し、ヒアリング及び協議の場を設ける。 過去資料に関してガイダンスを通じ、生徒に周知徹底を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎改修工事により進路室前の掲示板が使用できなくなったため、Microsoft Teamsを用い有効に情報発信を行えた。 生徒進路委員会を定期的に開催することができなくなった。 ハイスクールオンラインを活用し、他校の進学資料等を閲覧できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に与えるだけでなく、生徒が主体的に情報を収集・蓄積できる機会やシステムの確立が必要であると感じた。 情報法を収集するだけでなく、それを精査するための知識やスキルを身に付けさせる機会を設けるべきであると感じた。 就職試験における過去の資料について、見やすいものに変更すべきであると感じた。
保健部	保健	校内美化に対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・積極的に清掃活動に取り組めるよう、清掃道具の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「清掃のしやすい清掃道具が整備されていると思いますか」という教員アンケートの結果、「大変そう思う・そう思う」が78%を占め、環境を整備することはできた。しかし、清掃監督がしっかりと行われているかという問いに対して「あまりそう思わない・そう思わない」が37%という結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は清掃時間を昼食後に変更することで平常勤務時間ではない教員にも清掃活動に参加してもらえるようになった。これにより、教員一人あたりが監督する生徒の人数を減らすことができるため、清掃がしやすくなるのではないかと考えている。来年度はこうした環境面以外で清掃を主体的に取り組むためにどのような問題点があるかなどを探っていきたい。
	相談	多様化する悩みについての組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> 悩みの調査や学年からの情報の共有を行うことで組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の担任会で出た生徒情報を保健部内で共有することができた。また、気になる生徒のSCの要否を確認するなど、担任との連携を積極的に図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度作成した個別の教育支援計画・個別の指導計画の様式や作成の手順について見直すとともに、就職や進学にあたり、作成が必要な生徒がいまいかどうかを保健部が中心となり特別支援教育委員会等を活用して検討していきたい。
情報研修部	自己研修の推進	自己理解とレジリエンス能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> SCや相談担当が発行する通信や「命の授業」、講話を活用し、生徒自身が自己を見つめる機会をもてるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「命の授業(1年のみ)やこころ通信、相談ダイヤルなどの配付された資料が役に立ったと思いますか」というアンケートに対して命の授業を行った1年生は約80%の生徒が「大変そう思う・そう思う」と回答した。しかし、2、3年生は71%、65%とやや低い回答であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 講話の内容やスクールカウンセラーによる通信などの内容・発信の仕方を見直し、生徒の相談先の選択肢を増やせるように努めていきたい。
	情報化の推進	自己研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> 研修の年間計画の作成を行う。 事前事後の研修報告の集約を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に教育センターから示される年間の研修について、生徒指導部を中心に若手教員が積極的に活用されていた。 校内での現職研修については予定通り実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度から実施される教員の自己研修について、研修内容の集約を年度当初に示すように準備を進めている。 現職研修の計画についても主体となる分掌と連携を取り、確実に研修の機会を得られるように示していきたい。
学年	1年生	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックを用いて目標を具体的に示し、意欲の向上につなげる。また、振り返りシートを活用し、学期ごとに目標を立てて評価をし、改善策を考えることによって継続的に学ぶ力を育てる。 情報機器やICTを活用しながら、学ぶ意欲と学び続ける力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査前に目標を立て、考査後の結果を振り返って自己評価することにより、次の考査への学習意欲を高めることができた。一方で年間を通して評価が横ばいの生徒もおり、振り返りの方法を考える必要もあると感じた。 学校評価アンケートの、「主体性」の項目で5段階の評価で4以上の生徒が40%、3以上の生徒を含めると90%以上が身に付いていると答えており、授業で対話や発表をする機会が増えたことにより主体性を身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「計画性」の項目で、課題の解決に向けたプロセスを明らかにする力が感じている生徒が20%であったため、来年度は進路実現という目標に向けて、各学科において分掌等と連携しながら進路指導を行い、一人ひとりの進路実現に向け、計画を立てさせたい。
		基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 集会やガイダンス、学年便りなど、さまざまな方法を用いて学校生活について理解を促す。自ら考えて行動し、規律ある高校生活を送ることができる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートから、1学期に比べて「自分で考え、判断することや責任ある行動をとることができた」とした生徒が24%増加した。 遅刻や欠席をする生徒が2学期から増加し、体調面や精神的な面で心配な生徒が増加した。担任会で生徒情報を共有し、本人や保護者との面談や電話連絡をするなど、分掌と連携しながら、状況に応じて対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、分掌・他学年との連携を取りながら一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう支援していきたい。 キャリアパスポートを活用し、学校での特別活動を通じて学校での様々な活動を記録し、自己理解を深めさせたい。また、進路実現に向けて各学科に合わせて資格取得と連動させながら将来に向けて考えさせていきたい。
	2年生	集団生活環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行や学校行事等を通して、集団生活のための見識を深める。 互いの個性を認め合うとともに、周囲に配慮した言動を行い、仲間と協力し合う望ましい人間関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 90%以上の生徒が目標を達成できたと回答したことから、一人一人の集団意識は向上したと言える。一方で、場に応じた適切な行動がとれるよう支援する必要性を感じる。 目標を達成できたと回答した生徒は90%以上であった。しかし、円滑なコミュニケーション(意思疎通)をとることができない生徒が増えていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の一員から社会の一員へと視野を広げる意識をもたせるよう努め、最高学年としての自覚のもと、場に応じた適切な行動がとれるよう継続的に支援を行う。 学校生活や学校行事等を通して、他者に対する適切な言葉の使い方や対面でのコミュニケーションの大切さなど、互いに良い影響を与えながら成長していく環境づくりに努める。
		キャリアプランニング能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学科選択による専門的な知識・技術の習得及び選択科目による進路選択の幅を広げ、学校での学びと将来のつながりを考える。 インターンシップや進路行事を通して、望ましい勤労観・職業観及びビジネスマナーを身に付け、一人一人のキャリア教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 道を究めるとい言葉掲げ、専門的な知識技術の習得意識をもたせるよう努めた。昨年と比較し家庭学習時間の減少が課題である。 約130名の生徒がインターンシップに参加し社会的職業的自立に向けた態度を養うことができた。80%以上の生徒が積極的に学ぶ意欲があると回答した。進路実現に向けた目的や目標が不明確な生徒が多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の進路実現のため、生徒自身で深く考察することができるよう次年度以降も生徒に向き合う。また、生徒が目標に向かって自律的かつ計画的に進められるよう、進路指導部と連携しながら適切な助言及び指導を行う。 各自の進路目標の達成に向けて、自ら考え主体的に学習に取り組む態度を育成する。また、スタディサプリを活用し、就職希望者及び進学希望者に応じたコンテンツを効率的に配信する。
3年生	主体的な進路選択と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に情報を収集させ、進路実現に向けて行動させる。 進路指導部と連携し、進路情報を共有しながら学年全体で生徒の進路をサポートし、進路先とのミスマッチの防止に努める。 タブレットPCを活用した情報収集や、試験の日程確認など個々の必要に応じた進路実現のための活動を促す。 進路実現と社会に出るための準備として学力向上と検定の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPCの活用の仕方、常に情報を自ら取得しようとする姿勢を身に付けることには成功したと思われる。個人によって必要な情報、そうでない情報の取捨選択や個々に応じた指導への礎として情報化社会に対応するための基礎を築けた。 進路実現に向けては、進路指導部との密な情報交換、生徒個々との面談等を通じて自ら行動するための指導を行ったことでより自らの希望を具体化した進路実現となった。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ、タブレットPCの活用において、十分な成果が挙げられているとは言えない。あくまでこちらからの啓発指導により受動的に利用しようとしている生徒が多い。情報収集の手段として3年次のみならず、入学時からの徹底した活用指導が必要不可欠であると感じた。授業のみならず、普段から活用の仕方について発信し、主体的にタブレットPCを利用しようとする姿勢に結びつける指導が必要である。 	
	新成人としての自覚と自立	<ul style="list-style-type: none"> 成人としての責任を自覚させ、成人としてふさわしいマナーの向上と周りに配慮した言動の定着を図る。 学校生活や行事を通して自ら気づき、考え、人のために行動する態度やコミュニケーション能力を育成する。 社会の動きに対する関心を育み、社会の一員として視野を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、LT等を活用した講話や学年集会、合同STなどタイムリーに必要な指導を実施できた。学年末考査後の時間割においては新社会人として、新成人として必要な知識・技能の習得に向けた講話を実施した。とくに卒業生からの講話において働くこと、上級学校で学ぶことについての現実の話により実感できる内容となり生徒の反応も上々であった。継続できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業前の講話は中身の精選が必要である。時間のないところではあるが、生徒や担任団の意見をもとに取捨選択を検討する。 LTや学校行事だけではなく、授業や学科ごとで行っている外部講師による授業などにおいて良いと感じるものは他学科においても共有したり、他の授業においても実施を進めることができると統一見解の共有が進められると思われる。 	

商業科	1年全科	基礎・基本の定着と主体的に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基本として学習を進め、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 積み重ねた知識、技術を活用した課題解決型学習を実施し、思考力、判断力、表現力を養う。 地元産業についての調査、探究を行い、地域に貢献できる「人財」となるための意識づけを行う。 学科改編における魅力的な商業教育の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定に固執せず、今の時代を担う社会人として必要な資質、スキルの習得を目指した授業を展開した。 科目「ビジネス基礎」や学校設定科目「岡崎学」を通じ、岡崎市を中心とした地域産業等について学び、地元に対する意識に変化が見られたと感じている。 海外、外国語に対する興味関心のある生徒が少なく、グローバルビジネス科グローバルコースの選択者がかなり少ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定取得に関する、生徒、保護者、地域からの要望にも応える必要があるため、授業内に留まらず、生徒が主体的に学習に取り組む意識づくりが必要である。 「ビジネス基礎」と「岡崎学」において学習内容に重なりが見られる。「岡崎学」の学習計画の見直しも含め、生徒により有益な授業としていきたい。 英語科等の他教科とも協力し、語学の重要性について周知し、言語のみならず文化や歴史、経済等の情報発信をし、海外への興味関心を抱かせる仕掛けが必要である。
	国際ビジネス	コミュニケーション能力の伸長と国際感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の向上やビジネスマナーの育成を目指し、海外も含め、外部との連携を進める。 外国語を知識として習得し、活用できる能力を高めるため、他教科と連携した授業計画を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「ビジネス・コミュニケーション」、「ビジネス実務」、「課題研究」等を通じ、言葉やそれ以外によるコミュニケーションの重要性や、ビジネスマナー等について指導できている。 海外文化研修を3月に実施するなど、コロナ禍では行えなかった活動も再開できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年を限らず、海外や外国語に関して興味関心の薄い生徒が見受けられる。次年度以降のグローバルビジネス科グローバルコースについても選択者数が少ないが、英語科と連携し、魅力発信を行ってきたい。 学習した内容について、教科、科目内の考査や活動のみに留まる生徒が多く、その内容を生かして検定取得や異文化交流に臨む生徒は限られているのが現状であるため、意識改革が必要である。
	情報処理	授業連携と授業改善を実施し、情報社会に対応できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教科、科目に関わらず、いずれの科目においても意欲的に授業に臨ませる。 各科目における目標を明確にし、その目標に沿った授業を展開する。 情報に関する知識・技術・モラルを身に付けさせるため、各科目で連携して授業を実施する。 タブレットを使いこなせるよう指導し、より効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> IT概論が5単位から3単位になり、基本情報技術者修了認定試験に合格させるのはかなり厳しくなった。IT概論以外の科目担当者にもお願いをしたが、他の授業も進捗があるので大変難しかった。 3年生に情報処理検定の再受験をさせたが、結果としてはかなり厳しい状況だった。 タブレットについて、経年劣化による故障が増えてきたが、生徒は各自で上手に工夫して対応している様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報処理（ITビジネス）科についてはカリキュラム変更して、IT概論の単位数を増やす検討をする。 来年度も引き続き情報処理検定の再受験を進めていく。ただ、受験をさせるのではなく、再受験で合格させるための方策を考える必要がある。 経年劣化による故障もあるが、個人の使い方について今一度確認させるとともに、学校で充電させないよう、モバイルバッテリーの購入について検討する。
	総合ビジネス	起業家としての基礎力を身に付け、地域社会に貢献できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各科目の学びを通じてビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、主体的・協働的に取り組める授業を展開する。 個別学習とグループ学習を適切にバランスよく取り入れ、生徒主体の授業展開を増やす。 地域の人や企業と関わる体験学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生では「マーケティング」、「商品開発と流通」の授業の中で、生徒の主体的・対話的に深い学びの実現を目指し取り組んできた。 3年生「課題研究」の「Startup Okasho」講座では、経営について起業家から直接学び、デザイン思考ワークショップを通じて新たなビジネスモデルの考案をするなど、実践を通じて学ぶことができた。「商品開発」では岡崎東公園と連携して、「公園の集客アップ」という課題を細分化し、既存グッズのPRや新たなグッズの企画・提案などの方策を見出し活動してきた。この活動は来年度2年生の「商品開発と流通」で継続して実施する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の「課題研究」が1単位増加し、学校設定科目「インターンシップ」が開始される。多くの生徒の受け入れ先企業の確保は簡単ではない。今後継続的な充実を図るためには、受け入れ先企業か「次も是非」と依頼してもらえるような指導が必須である。基本的な就業意識はもちろん、積極的に働く意識の向上を図る指導を徹底しなければならない。多くの生徒たちが主体的に活動できる環境を整え、地元で活躍できる人財となれることを目標とした。
	情報会計	授業改善と即戦力となる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 科目単位数の減少や科目改編を踏まえ、学習効率を上げる授業展開をする。さらに基礎から専門分野まで幅広い知識の習得ができるようにする。 即戦力となる技術の習得を心がけた授業展開をする。 タブレットをはじめとしたICT機器の授業活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計Iなど5単位であった科目の単位数減少を受け、効率のよい指導を行い、目標を達成できるようにしてきた。課題を課し、単位数不足を補った結果、例年以上の成果をあげることが出来た。 実践的、主体的な学習を通し、自ら考え行動に移せる能力を養えた。 タブレットによる授業展開の研究により、実用化できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度と同様に課題等を活用し、成果をあげたい。また、teamsを利用し配信を行い学習意欲を高める工夫をしていく。 総合実践はビジネスマナー等も考慮し、生徒個々の成長が大きくみられる科目である。そのため、今後も継続していきたいと考える。タブレットを使用してリモート授業を行っているが、通信状況によっては困難な時もある為、改善が必要である。 本年度も学級閉鎖があったため、リモート授業の必要性を感じた。どの教科もさらなる研究が必要である。
衛生委員会	教職員の健康	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の在校時間調査結果の分析を行い、勤務の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務が月45時間超の延べ人数は昨年度とほぼ同数であった。（今年116名、昨年115名：4月～12月）年度当初の4月、学校行事前の9月、10月が多い。 定時退校日には、早帰りができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌を3グループ化し、繁忙期における各分掌の軽減を図る。また、類似・関連した業務内容について、統合・整理する。 毎月19日（はぐみんデー）を定時退校日として、年間の定時退校日の日数を増やす。 	
総合評価	<p>本年度の重点項目に対する評価及び改善点</p> <p>(1) 学習・資格取得・読書 新学習指導要領施行による3観点別評価（「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」）において、評価方法の開発を推進し、学校の実情に合った評価ができるようになった。タブレット端末を活用した学習に生徒も教員も慣れ授業や課題提出での活用が進み授業改善が図れた。今後は、外部人材の積極的な活用を行い、教員の指導改善や生徒の学習意欲の更なる向上を目指す。 生徒の積極的な高度資格への挑戦の結果、日商簿記検定1級に4名合格、基本情報技術者試験に10名合格するなど、目覚ましい成果をあげることができた。 本館改修工事のため図書館機能を縮小せざるをえなかったが、図書貸出冊数は昨年なみと読書に勤しむ生徒が一定数いる。次年度前期も改修工事のため図書館が十分機能しないが、読書を通じて豊かな心を育む機会を途絶えさせないようにしたい。</p> <p>(2) 学校行事・部活動 体育祭を初めて校外の体育館で開催した。校内開催での懸念事項であった雨天順延や駐車場の確保について解決することができた。多くの保護者に参観していただき生徒の躍動する姿を見てもらう機会となった。生徒会執行部と各委員による運営方法に変更し、持続可能な方法となった。体育祭、文化祭とも生徒の満足度は高かった。次年度は、文化祭でのクラス展示内容の充実と学校生活における委員会活動の在り方の検討を図る。 部活動では、部活動ガイドラインに沿った活動も定着し、生徒が活発に活動する場面も増えた。弓道部女子の全国大会5位をはじめ各種大会での活躍も顕著であった。生徒のコミュニケーション能力を育む場として、来年度も特別活動を積極的に勧めていきたい。</p> <p>(3) 生徒指導・生徒相談・学校安全 生徒指導提要改訂により、本校でも指導から支援へと従来の指導からの見直しを図った。交通安全やSNSトラブルなど高校生重大問題について、授業や委員会活動で啓発動画や啓発ポスターを制作した。また、指導方法もプロアクティブな指導へ、指導形態もクラス単位へ変更し、生徒が主体的にかかわれるように工夫して、人権尊重・いじめ防止に関わる指導等を実施した。 生徒相談においては、担任会や保健部で生徒情報の共有し、SC等へとつなげることができた。しかし、組織としての対応が不十分なケースもあり、次年度は特別支援教育委員会を機能させ、組織対応力を向上させる。 学校安全においては、より安心・安全な学校づくりの視点で生徒と一緒に教育活動を点検した。その取組などにより、学校安全優良校として表彰を受けた。</p> <p>(4) 進路指導 生徒が主体的な進路選択ができるように、Teams等を活用した進路情報の提供や3年間を見通した進路的行事を実施した。その結果3年生のほとんどが「自分の希望する進路決定ができた」と回答した。しかし、就職について、生徒の主体性や企業研究が不足していると感じるので更なる機会と情報提供を実施する。進学については、希望者の増加により、指定校以外の様々な入試に対応する体系的な指導方法の構築に努める。</p> <p>(5) 開かれた学校づくり 本校の学びを知っていただくために、保護者や中学校の先生、企業の人事担当者に授業等の教育活動を見ていただく機会を増やした。学校評議委員会とは別に岡崎ビジョン会議を年2回開催し、市役所、商工会議所青年部、地元企業の方々から、本校の教育活動の方向性について示唆を得た。</p> <p>(6) キャリア教育 HR活動や委員会活動、部活動など様々な場面において、役割意識をもたせ、社会の役に立つ人間の育成に取り組んでいる。主権者教育、消費者教育、金融教育等の成人として必要な学習内容について各教科・科目で実施している。</p> <p>(7) 教員の働き方改革の推進 在校時間調査において月の時間外勤務が45時間を超える職員数は前年度と同程度であった。ただ定時退校日には、早帰りが定着してきており、ワークライフバランスを意識した勤務ができつつある。意識改革だけでは、頭打ちになっているので、次年度は分掌を3グループ化し、繁忙期における各分掌の軽減を図り、類似・関連した業務内容について統合・整理するとともに毎月19日（はぐみんデー）を定時退校日として、年間の定時退校日の日数を増やす。</p>				